献身と思いやりの心を。

❖西尾武喜
名古屋市長

これまでも、地上の楽園を思わせる素晴らしいものが数多く生まれました。しかし、そのほとんどは姿を消し現存していません。

この世に生を受けたものは必ず死に、形あるものは必ず消え去ります。そして、人々の評価も時代とともに移っていきます。人の心も時として移りゆきます。しかし、人間が人間らしく生きていく上で忘れてはならない、自己を犠牲にして相手に尽くす献身の心、思いやりの心などは、幾多の危機を乗り越え今日まで私達の胸の中に派々と伝えられてまいりました。そんな心をこれからも忘れずに、いつまでも伝えていきたいと思います。

感動を真空パックして。

❖竹村亞希子
易学者・占いの玉手箱

イエペスのコンサートを、感動と一緒にパックして未来の人々に聴かせてあげたいですね。イエペスのギターには、音というカタチのないものを映像に変えてしまう力がありますよね。例えば、つい先日のコンサートのアンコールでアイルランドの行進曲を弾いてくれたのですけれど、大勢の兵隊さんが遠くから近づいてきて、やがて去って行く様子が、まるで映画を観ているかのようにイメージできた。戦争のための行進というよりも、のどかな行進。音が小さくなるんじゃなく、気配が遠のいてゆくんですね。足並みが揃っている様子もはっきりと分かりましたよ。

時代の価値観が変わろうと、人間の本質は変わりません。だから、細胞のなかに仕組まれている歴史の記憶が反応して、きっと、感動してくれると思うんです。ほんの些細なことかもしれないけれど、生きてて良かったなという感動はこうしたところにあるような気がしますね。何とか、そのまま保存できる方法はありませんか。

チキュウハナニイロ?

❖宮崎喜一
造形作家

こんなメッセージを残すつもりです。

「かつて、『地球は青かった』と宇宙飛行士が言いました。いま、あなたがたが見るこの惑星は、いったい何色なのでしょうか? そして、僕たちは、あなたがたに何を残し、何を壊したのでしょうか。いま、時空を超えて会いに行きましょう。近いうちに……」

番組のテープを財産として伝えたいね。

❖原直司
テレビ愛知制作局プロデューサー

現在制作しているテレビ番組のテープを資料映像として保存してください。テクノロジーの発達した未来では、(もっとも猿の惑星みたいに文明が退行してしまった世界は別ですが)ちょっとした資料映像があれば、合成や修正などで、全く別の映像として次々に展開できる。だから、一九八九年の名古屋を舞台とした時代劇なんて番組も簡単に制作できるわけで、これは未来のテレビ制作者にとって、かなり面白い資料になるでしょうね。未来人にしてみれば、報道、バラエティ、グルメといった番組のジャンルは関係ないんですよ。すべての番組が当時を垣間見る考古学的資料、つまり財産になってしまう。例えば今年の正月に東海地方の珍味ばかりを食べる番組を放送したんですが、その中で漫才の阪神巨人さんが、知多のコノワタや足助(あすけ)のクマバチの子を食べるシーンがあった。これなんかは、きっと、面白がって使うんだろうね。何気ない家庭の